

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795700030		
法人名	株式会社 弘春会		
事業所名	グループホームくしぼる		
所在地	沖縄県島尻郡八重瀬町字後原268番地3		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成25年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4795700030-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は住宅街の奥に位置し、緑豊かで静かな環境にあります。敷地内はバリアフリーで歩行に不安がある入居者でも自由に移動できるように配慮しています。また開設当時より、入居者御本人が自分らしく生活できるように御本人や御家族が気持ちや要望を伝えられる関係づくりに取り組んでおります。これまで同様、地域に開かれた施設をめざし、施設設備の提供や地域活動への参加に尽力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には、入居者、家族、自治会長、老人会長、行政、地域包括センター、民生委員が毎回参加され、開設3年目の事業所が既に地域の一員として認識されていることが伺える。解放された畑を利用させてもらい、収穫した野菜を近隣におすそ分けしたり、事業所の福祉車両の貸し出しを行う等、地域との交流や関係性を深めている。防災訓練を定期的に実施し、近隣住民も巻き込んでの訓練では、参加協力を得る等信頼関係を築いている。職員配置が手厚く、入居者とゆったりと過ごし、また看護師も常勤配置されている為、インシュリン注射や吸引等の医療的ケアにも対応している。記録(研修、ケア、会議)は詳細に記載され、特に、ケア記録は日記形式(暮らしの日記)で利用者家族への報告書としても活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

【定日:平成 25 年 11月21日】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員入職時に理念や地域密着型施設としての役割について説明し、理念に基づき職務を全うできるように指導している。毎朝理念を唱和し理念に沿った援助を行えるように取り組んでいる。	理念は開所時に代表と管理者で考え、「地域との結びつきを大切に」と作成している。理念をリビングに掲示して毎朝唱和し、理念の共有を図っている。理念の一つ「認知症ケアの専門家として知識、技術の向上に努める」を実践するため、色々な研修に参加し、研鑽を積んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、地域行事の参加や美化活動などに取り組んでいる。また、地域の方が開放している畑の収穫を行ったり、近所の方の家を訪問し、お茶を頂く等の交流を持っている。	3か月に1回地域の美化活動に役職員が参加し、盆踊り等には入居者と一緒に参加している。敬老会には地域の方の参加があり、また、オカリナや空手、台湾踊り等のボランティアも訪れている。入居者と共に育てた野菜を近隣の方に配ったり近隣の方から福祉車両の貸し出し依頼があり、貸し出しをしている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の美化活動への取り組みを行っている。地域の子供たちに庭やデッキを開放し遊び場として提供している。地域の方への福祉車両の貸し出しを行っている。災害時受け入れの自主事業などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、活動状況や改善内容等の報告を行っている。委員からは運営に関する評価や助言等を頂いている。会議では施設の運営に関する内容にとどまらず、地域で暮らす人達がどんな暮らしを望んでいるか、どのような支援が必要か共に考える機会としている。	運営推進会議は、必要なメンバーが参加し定期的に行われている。外部評価結果やヒヤリハット、入居者の状況、研修等について報告され、意見交換している。災害時の緊急受入について、利用料金等を相談したり、地域の高齢者の状況を話し合い、対応等も検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議で事業所の実情について報告している。それ以外で入居相談についてなど必要に応じて情報提供を行いながら協力して対応している。	行政とは運営推進会議で情報交換をする他、パンフレットを持参し事業所の空き状況を伝えている。入居希望の生保の方について、行政の指導を仰いでいる。昨年からの目標であった緊急ショートステイに絡み、東日本大震災の「被災者枠」の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は内部・外部研修や会議等で話し合う等、身体拘束をしない取り組みへの理解や意識の向上などを行っている。又、ナースコールが押せない入居者に関しては、ベットの4点柵をせずつ見守りが出来るように工夫して対応している。	事業所は身体拘束について運営規定で方針を明示し、マニュアルも整備している。玄関の他、リビング等日中は施錠をせず、外へ出ていく方には職員が散歩等で同行している。家族には入居時に「リスクについての説明書」で理解の同意を得ている。転倒の恐れのある入居者は床にセンサーを設置し対応している。	

沖縄県(グループホームくしばる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部・外部での研修を実施する事により、高齢者虐待防止関連法について学び職員の理解や意識を高めている。又、認知症患者のご家族講演会等にも参加しご家族や本人の気持ちを知る機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外での研修を実施し、権利擁護の様々な制度や人権について学び理解や意識向上を行っている。又、職員内でも話し合い情報の共有について行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い、解約、改定時にも十分に理解・納得して頂けるような説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族に声掛け等を行っているが、実際には運営推進会議やサービス担当者会議などで出た意見を運営に反映させている。例えば入居者の日々の生活を報告した記録では、面会者に関する内容を記載したところご家族から好評であったので、面会者について記載するようにしている。	介護計画に連動する個別の状況報告書を作成し、「一日日記」として家族に毎月提供し情報の共有に努めている。家族から面会時やサービス担当者会議で意見を聞いているが、本人家族が意見を表出する機会の取り組みは十分ではない。また、介護支援相談員を受け入れ、サービスに活かしているが、規程等に記載がなく、本人家族へ周知が十分ではない。	介護相談員の受け入れについて、運営規程に記載しお知らせすると共に、本人家族から意見が表出できるよう取組に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のショートミーティングや全体会議等で意見や提案をする機会を設けている。例えば業務の進め方や日々の献立など、日々変化する入居者の状態に合わせて進められるように職員の意見を取り入れ改善している。	毎朝の申し送りや1カ月に1回の全体会議を通して職員は意見を言える機会がある。職員から業務の見直しの提案が出され、休憩や掃除、洗濯等に要する時間を検討し、勤務時間に応じた業務分担に変更している。全体会議に参加していない職員は、会議録や申し送りで確認し共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の職務実績や勤務時間の状況を把握し、給与や労働時間の調整を行っている。また、個人面接で職員の意向を確認、資格取得のための勤務調整や、処遇改善交付金を給付し、意欲を持ち働けるよう職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修への積極的な参加を進めている。勤務調整や研修中は勤務扱いにするなど、職員にとって研修が負担にならないように配慮しながら進めている。入職時に介護者としての力量を把握し、個々で課題をもうけスキルアップ出来るようにしている。施設内研修では職員間で持ち回り制でテーマについて調べ、学んだことを他職員とディスカッションすることで職員全体で学べるように工夫している。		

沖縄県(グループホームくしぼる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会・交流会・勉強会等へ積極的に参加し、情報交換を行っている。又、他施設への相互訪問も実施しておりネットワーク構築やサービスの向上を促進している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でご本人に要望を伺い、ケアプランに反映するように努めている。要望等をストレートに表現する入居者様は少ないなかで、御本人の言動や行動に注意し、御本人が満足できるサービスを提供できるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族に要望等を伺い、ケアプランに反映するように努めている。入居間もない頃は不安やなども多いため、面会時にご本人の様子などを伝えながら、ケアについて密に話し合い、ご本人やご家族が満足できるサービスが提供できるように調整している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援についてはアセスメントを行い、他のサービスも含め対応している。例えば医療ニーズの高い入居者や今後医療ニーズが予測できる入居者に対しては、医療機関等の連携を兼ねて情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者は暮らしを共にするものとして、必要なことを協力して行っている。洗濯たたみやもやしのひげ取りなど、最初は声をかけお願いすることもあったが、次第に入居者が自然に取り組むようになった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人とご家族の絆を大切にしながら、共に支えていけるように支援している。例えば御本人との関わりを多く持ちたいと希望されるご家族には、食事介助等ご家族の役割を話し合いの上設け、ご家族が出来ない部分は密に連携を取り、職員が対応し取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入り口に面会簿を設け、御本人のなじみ深い人の面会等があった時はご家族に報告している。御本人だけでなく家族ぐるみでのつながりが継続できるように支援している。又、本人の大切にしている場所等を把握し訪問したり常時面会可能な環境を作り支援している。	入居開始時のアセスメントで情報収集し、入居者の馴染みの方がいる公民館等へ出かける等の支援をしている。ドライブで生家や経営していた会社の前を通る等の支援をしている。	入居後、本人家族からの会話などから情報収集(掘り起し)をすることで、さらなる取り組みに期待したい。

沖縄県(グループホームくしばる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段より食卓を共にしたり、レク活動等やイベントをなどを通して入居者同士のコミュニケーションを図っている。入居者同士お互いの体調や様子を気に掛ける場面があり、生活を共にする者同士支えあう様子が見られる。又、入居者同士のトラブルの際は双方の意見や気持ちを代弁し、関係がこじれないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば、在宅復帰をされた入居者については、たびたび電話等で御本人やご家族で声をかけ、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の思いや意向の把握が困難な場合が多いが、御本人の言動や行動より把握しサービスを検討している。例えば買い物や外出等のサービスの提供は、人員の都合により提供が困難だがなるべく応じられるように努めている。	発意の少ない方が多く、入居者の思いや意向を把握することは難しいが、入居者の表情等から本人の意向を検討している。夜眠れずに落ち着かない入居者が映画が好きだったことを家族から聞き、好きな洋画を見てから就寝するように支援し、落ち着きを取り戻している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や入居後の本人との会話や家族との情報交換を利用し、暮らしや生活環境、サービス利用経過等の把握に努めている。なるべく施設入所後も御本人の習慣等が取り入れられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活を把握し、一時間毎の記録、介護記録や業務日誌等を使用し記録を残し、職員同士で情報の共有を行い支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを用いて、御本人の要望などを情報提供するとともに職員間で御本人のケアについて話し合いを設けている。訪問診療時に主治医の意見を聞くなどして関係者からそれぞれ意見を聞き、ご家族や御本人と話し合った上で介護計画を作成している。	モニタリングは3か月に1回管理者が実施し、随時や更新時の見直しに繋げ、また、退院後等必要時に応じた見直しも実施している。サービス担当者会議において本人、家族の意向を聞き介護計画を作成している。入居者が実践している役割等は日課として捉えられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に食事、排泄、日々の状態や気づき、実践事項を記録し職員同士での情報の共有や介護計画に活用している。又、ご家族に毎月個別のお便りを送付し、普段の暮らしや健康状態を伝え、ご家族と情報を共有しながら介護計画の見直しを行っている。		

沖縄県(グループホームくしぼる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護車両の貸し出しや災害時の受け入れ事業など、自主事業として多種多様なニーズに答えられるよう多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や個人で開放している畑での収穫に参加し、馴染みのある地域との結びつき大切にしている。地域の子供たちをボランティアとして受け入れる事で心を豊かにし楽しんで暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療ニーズに対するアセスメントを行い適切な医療が受けられるように、ご家族に声掛けや情報提供などを行っている。訪問診療時は電話やFAXで、病院受診時は受診表を作成するなど、情報提供や療養上の指示を受け主治医との連携を図っている。	入居者の現在5人は協力医の月2回の訪問診療で、他の入居者は家族とかかりつけ医を継続して受診している。状態等の情報提供は、訪問診療の場合は事前に書面等で連絡し、家族へは受診表や口頭で伝えている。家族や職員は、かかりつけ医受診等の際は「外出届け」を事前に提出し、通院送迎等の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートを活用して、ケアの際に気が付いた情報などを書き留め、施設看護師はそれを基に訪問診療や病院受診時に協力医療機関の看護師と調整を行っている。訪問診療時はFAXや電話で情報交換に漏れが無いように配慮し、入居者が必要な医療サービスが受けられるように工夫している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーを作成など、主治医や関係医療機関に情報提供を行っている。また入院中は定期的にご家族や医療機関等と連絡を取り、御本人の状態把握と共に退院後必要なサービスがすぐ提供できるように調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<重度化した時の方針>重度化する入居者に対しては、その状態変化に応じて、事業所の支援のあり方や対応方針を家族、管理者、職員、主治医などが入居者本位に検討していく。<終末期の方針>御本人や御家族の思いを大切に、主治医や医療機関等との連携を強化し、希望に応じて対応を行うことを説明する。	事業所は利用契約書で重度化等について方針を謳い、入居者全員に「重度化した場合の対応及び看取りケアの指針」を説明し同意を得ている。また、法人と医療機関の間で重度化や24時間対応で契約を交わしている。職員は救急講習やたん吸引の研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員救急講習、AEDの設置・講習を受け、急変時に対応できるようにしている。又急変時に喀痰吸引が必要な入居者に対しては夜勤業務を行う職員を優先し喀痰吸引の研修を受けるようにしている。緊急時のマニュアルはすぐ閲覧出来るようにリビングに置いてある。救急隊員や搬送先の病院に情報提供できるようにカルテに救急車要請書を常備し、外出時でもすぐに作成できるように持参している。		

沖縄県(グループホームくしぼる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの作成、備蓄の確保、停電に備えて自家発電機の準備、定期的な緊急通路の整備等を行い緊急時に備えている。また、消防署立会いのもと防災訓練を実施している。その際地域の方を緊急連絡網に組み入れる等、協力体制を築いている。	訓練は2回計画し、3月は昼想定で自主訓練を、4月には夜間想定を消防署立会いで実施している。夜間想定での訓練では、協力を求めた近隣住民の早い駆け付けを消防職員が高く評価している。事業所内はスプリンクラー等防災設備を完備し、備蓄等も充実している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活介護または支援の際、入浴や排泄の介助、私物の整理、金銭の管理、その他様々なプライバシーに関わる内容については、なるべく配慮しながら行うようにしている。また入居者に対しての声掛けや態度はお互いに生活を共にする相手として、節度を持った態度で接するよう心掛けている。	入居者のペースに合わせ、食事や睡眠等へ配慮している。朝ゆっくり起床した時間で朝食を、大好きな映画をDVD鑑賞してからの就寝等、個別への対応を職員間で共有し支援している。排泄や入浴等の支援でも入居者の意向に沿い同性介助や見守り等で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望の表現聞き取ることが難しい入居者が多いが、日々の生活の支援では御本人が選択、自己決定できるように配慮している。また、御本人の要望についてはなるべく調整し実現していくことで、入居者が思いや希望を伝えられる関係づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、個々の状況に応じて対応している。例えば朝ゆっくりと起床する入居者に対しては起床した時に朝食を提供したり、夜間入浴を希望される方など、なるべく個々のペースに合わせて対応していくように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人や家族の希望に沿い、理・美容師さんに散髪を依頼している。外出時は御本人の意見を聞きながら身支度を整えている。また、マニキュアを塗ったり、お化粧をするなどおしゃれを楽しむ機会をつくっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものや行事食などを取り入れ、季節感を感じられるように配慮している。個々の状態に応じて食事が食べやすいように食器やスプーンなどを変えたりしている。また食事摂取が難しく胃瘻などの検討がされている入居者に対しても食事がとれない原因をアセスメントし、食事がとれるよう配慮している。食事時は、入居者様、職員も一緒に食事の配膳や準備を行い、食卓を共にしている。	食事は3食事業所内で職員が調理し、入居者は野菜のつくりや料理の盛付け、おやつ作り等で参加している。外食の際には、事前に連絡を取って器具の持込み等調整し、入居者個別の形態でも可能な計らいを得ている。入居者の体調に応じ居室での食事も可能としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を基に、個々に合った食事形態工夫、栄養補助食品の使用等を行って栄養状態の維持を行っている。また、嗜好品等を取り入れ水分の摂取向上等を行っている。		

沖縄県(グループホームくしぼる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、歯磨きのセッティング、一部介助や歯磨きティッシュの使用など個人の状態に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じてなるべくトイレでの排泄を支援している。長い距離を歩くのがきつい入居者に対しては居室の位置を検討したり、居室やリビングの往復の途中でトイレを促すなど工夫をしている。	入居者の「トイレで排泄したい」の意向は、個別の排泄チェック表を活用してトイレへ誘導している。入居者が見せる立上り動作と、排泄チェック表の時間と照合し、トイレ誘導を促し排泄に繋がったことで、チェック表の有効性を共有している。入居者の一人で排泄したいの声にも転倒の危険性もあるが見守りで応えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維の多いおから料理を取り入れたり、嗜好品等も取り入れ水分摂取を行うなどなるべく下剤を使わずに排便が出来るように工夫している。それでも排便コントロールが難しい入居者に対しては、御本人の自覚症状などを把握しながら主治医と連携し、緩下剤の調整や必要に応じて摘便などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかに入浴の予定を決めているが、外出や失禁など個々の状態に応じて入浴を支援している。定期的に入浴が支援できるようにリビングにあるホワイトボードで入浴状況を把握できるようにしている。なかなか入浴しない入居者に関しては、部分浴などで対応したり、個人の気持ちを尊重しながら声掛け等を行うようにしている。	入浴は隔日支援を基本として支援し、浴室内にはミストシャワーも完備し、入居者から好評を得ている。入浴を拒む入居者には、清拭や部分浴等の選択を促し支援に繋げている。入居者の意向を尊重し、同性での介助や浴室外での見守りで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングやダイニングで過ごされる入居者が多いが、御本人の状況に応じて休息を促したりしている。＜居室の工夫＞扇風機やクーラーを各居室に設置してあり、好みの温度に調整できるようにしてある。また静かに休めるように居室のドアは閉め、ナースコールが押せない入居者に関してはセンサーを利用して見守りや介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が発行している薬の説明書をカルテに保管し、薬についてすぐ調べられるようにしている。定期薬等については、薬局で分包された薬を施設看護婦が内容を確認して管理している。一日の内服薬の管理は主に介護職員が行っているが、入居者に内服の介助を行うときは誤薬防止の為、お薬チェック表を用いて職員2名で名前、日付、薬の種類について確認し、介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が楽しみを率直に表現することは少ないが、入居者の様子を見ながらそれぞれが楽しみを持てるように支援している。例えば手仕事が好きな入居者には職員が手伝いながら折り紙を折ったり、農業を営んでいた方には畑や家庭菜園の収穫を手伝ってもらったり、家庭菜園の物品と一緒に買いに行ったりしている。＜嗜好品について＞お酒やたばこなどの嗜好品については御本人ご家族と相談のうえで対応している。ノンアルコールビールやジュース、コーヒー等個々の入居者様が好んで飲まれる飲み物を提供している。		

沖縄県(グループホームくしぼる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりが気軽に外出が出来るように支援している。例えば車いすでの外出では福祉車両の貸し出しを行ったり、外出に必要なもの(オムツなど)の準備を行っている。担当者会議や普段の面会の折に外出時の様子や困っていることを聞き調整するようにしている。	入居者は事業所周辺を散歩したり、近くの畑で野菜等の収穫にも出かけている。月2回全員参加で外出し、他事業所との交流や外食等で気分転換を図っている。入居者個別にも屋外活動として買い物支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいについては事業所で預かり管理している方が多いが、所持を希望される方については紛失などのトラブルを考慮しご家族、御本人と話し合った上で対応している。買い物など必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、家族への電話を行い、会話を楽しんでもらっている。家族に年賀状を出したり、誕生月には、日常生活の写真入りで家族にあてたメッセージが書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ダイニング・リビング>庭に面した位置にあり、明るい日差しと風を取り入れられるようになっている。各居室のドアの間あるニッチや和室の壁には、季節を感じられる飾り付けを施している。リビングには立ち上がり困難な入居者でも楽に立ち上げられるように座面の固いソファを使用し、疲れたらすぐに休めるようにリクライニング式のソファを設置している。 <その他>トイレは居室、リビングダイニングの近くにあるが、オムツ等のおいがないようにゴミをこまめに捨て、ゴミ箱は建物の外にストックするように配慮している。	事業所内は玄関の他リビングや、廊下奥や洗濯場横も、入居者や職員、家族が自由に出入りできる環境になっている。庭に面した共用空間は明るく、入居者はソファ等でテレビやカラオケで楽しんでいる。レクに使用する楽器等を置いた畳間も入居者が好んで利用している。浴室やトイレは表示し、入居者が混乱しないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段はリビングやダイニングで過ごす利用者様が多いが、一人静かに過ごす時間が設けられるように掃出しにベンチを設置している。設置場所の選択については現在入居者様1名が使用されているのでその方に合わせては決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者様がご家族と過ごした写真などをみて楽しめるように、写真などレイアウトをしている。その他居室を自由にレイアウトされる利用者様や、居室でくつろげるようにソファを設置したりと、就寝するだけでなく一人やご家族水入らずで過ごす時間をくつろげるように配慮している。	各居室には入居者の個性が表出し、折り紙で装飾したり、緑の植物をテーブル上に配置や、歩行を補助するような家具の配置等、家族等と一緒に取組んでいる。入居者は思い々の物、テレビやラジオ、写真等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<バリアフリー化>施設敷地内はバリアフリーになっており、玄関、廊下、トイレ、浴室、更衣室には手すりを設置している。歩行に不安のある入居者様でも自力での移動が可能であるようにしている。<トイレ>トイレの位置はどの居室からも行き来しやすい位置に設置されている。歩行が不安定な入居者様はなるべくトイレに近い居室になるように他の入居者様の了解を得て調整している。		